

## 有珠山噴火にともなう被害森林の最近の試験結果から

### 1. 被害森林の推移と更新・保育方法

天然生広葉樹においては、被害直後に新葉が展開し、翌春の開芽が懸念されたが、順調に生育している樹種が多い。また萌芽更新もあり、被害林分は漸次回復している。またカラマツ・トドマツ幼齢林の倒伏木、枝の下垂木に対する降灰除去、幹起こし、剪定などは、被災後速やかに実行するほど樹幹、樹形の回復に有効であった。

### 2. 降灰の移動防止と林地の復旧方法

降灰の移動防止 山腹斜面における融雪時の降灰の移動は殆んど見られなかったが、その後の降雨により雨裂がかなり発生しており、とくに谷地形ではガリーの発達が見られ、箇所によっては土石流も発生している。植生導入試験 牧草などの草本およびポット苗、普通芭、連続ねせ植え、さし本による木本の導入試験地では、通常の生育をし、裸地面を良く被覆している。

### 3. 病害獣害の発生調査と防除

病害については、被害枯損本の1部に胴・枝枯性病菌の侵入が認められ、また虫害についてもカラマツ折損木にごくわずかのキクイムシの発生が認められる。また野その生息状況は降灰の厚さによって異なり、45cm以上では全く捕獲されなかったが10cm以下では生息数の回復がかなり進んでいる。

(企画室)